

震災対策 混乱防止を強化

池袋駅で滞留者誘導訓練

東京・
豊島区



訓練に参加した滞留者と
公明党区議団

東京都豊島区は先ごろ、首都直下地震(震度6弱以上)が発生した場合を想定した「池袋駅周辺混乱防止対策訓練」を実施した。地震による鉄道運行停止で、大量発生が見込まれる滞留者や負傷者への対応訓練を実施し、駅周辺の混乱防止対策に反映させるのが狙い。震災対策を推進してきた公明党の長橋けい一都議(都議選予定候補Ⅱ豊島区)と、公明党区議団(此島澄子幹事長)も参加した。

池袋駅は一日の乗降客が全国第2位のターミナル駅。東京都の被害予想では、大地震発生時、16万5000人の滞留者、8万5000人の帰宅困難者が出るとしている。今回の訓練は、帰宅方面別に滞留者を待機させ、誘導時間をずらし、安全かつ効率よく誘導を行う訓練が行われた。254団体、約4500人が参加した。

訓練を終え、高野之夫区長は「今後実施される各方面の訓練での課題と情報交換しながら、発災から数時間以内の初動態勢の充実を図りたい」と述べた。

池袋駅での滞留者対策訓練については、区議会公明党が2007年9月定例会でその必要性を主張していた。